

2024年度 医療と介護の連携支援センター実績報告

【2024年度実績】

①支援センター・市民等からの相談対応、医療職・介護専門職からの相談対応

相談対応件数：1428件

②地域ケア推進会議の実施

実施回数：4回

③セミナーの実施

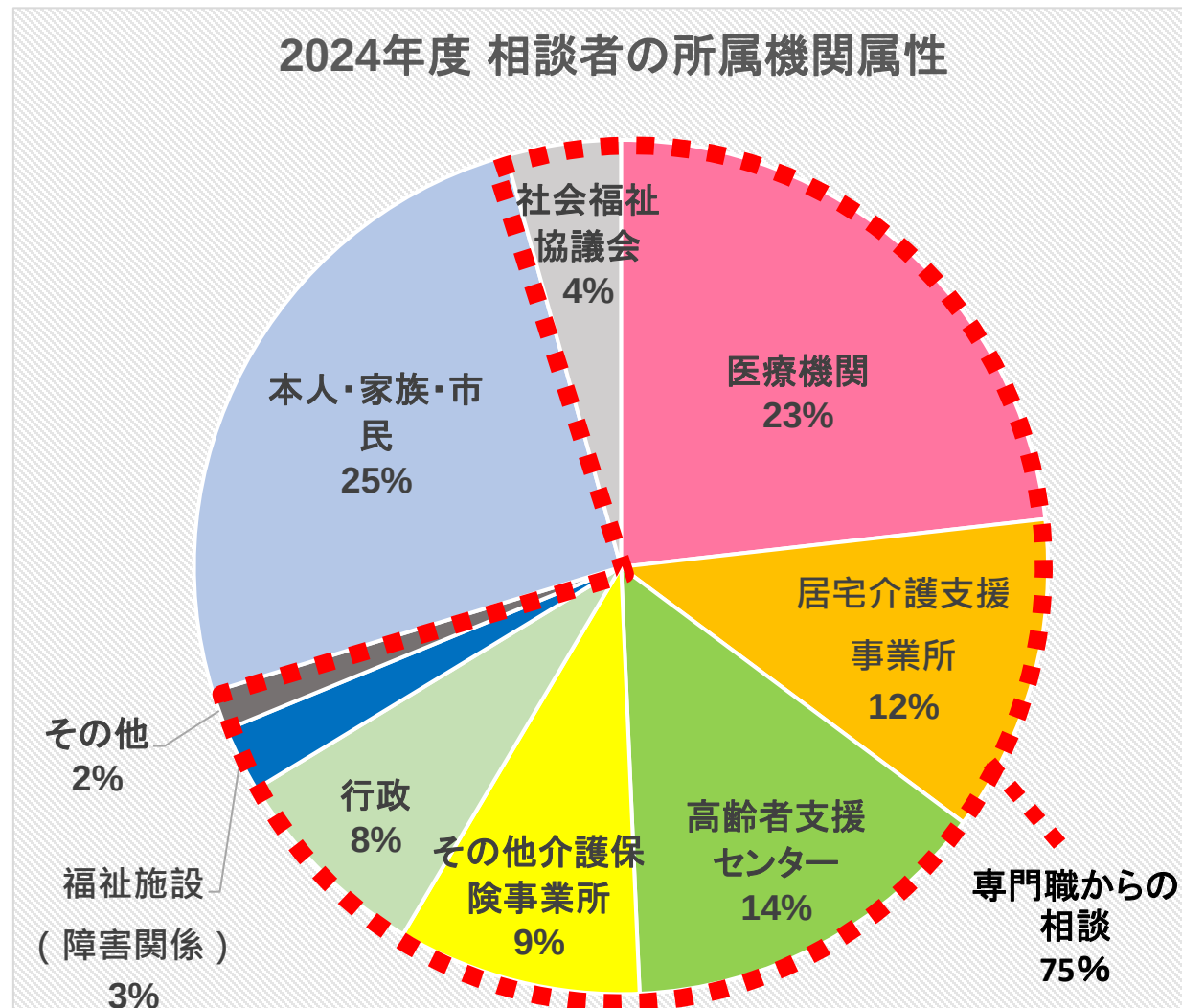
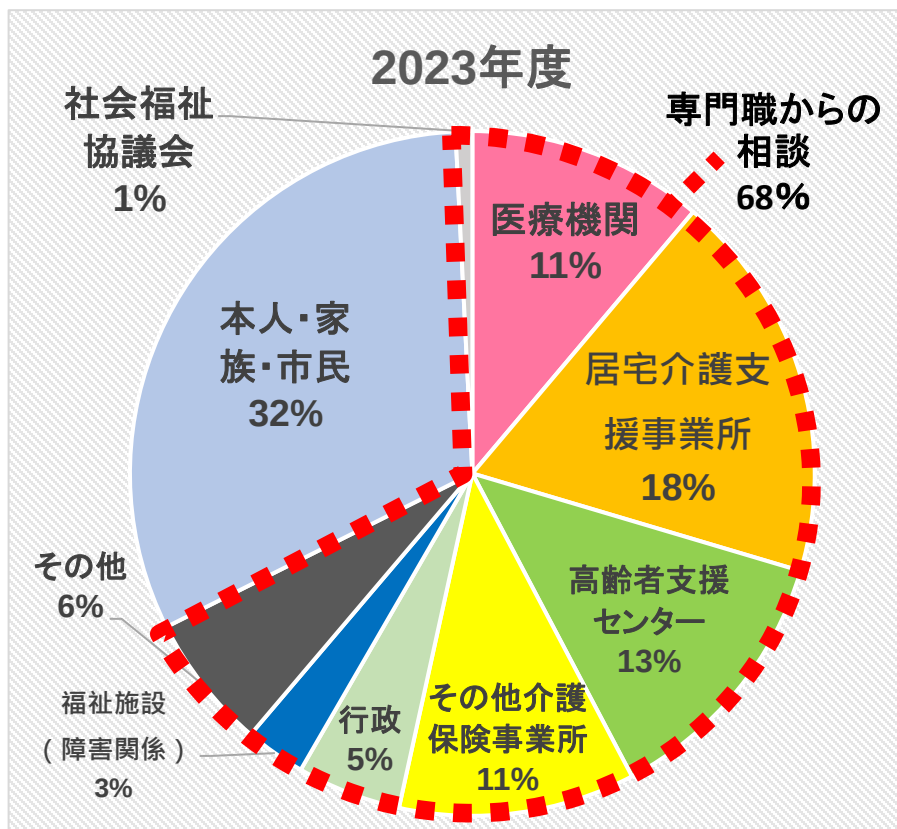
実施回数：1回

・医療と介護の連携に関する報酬改定を知って活用する

④会議体等への参加

参加件数：314件

①相談対応：相談者の所属機関属性

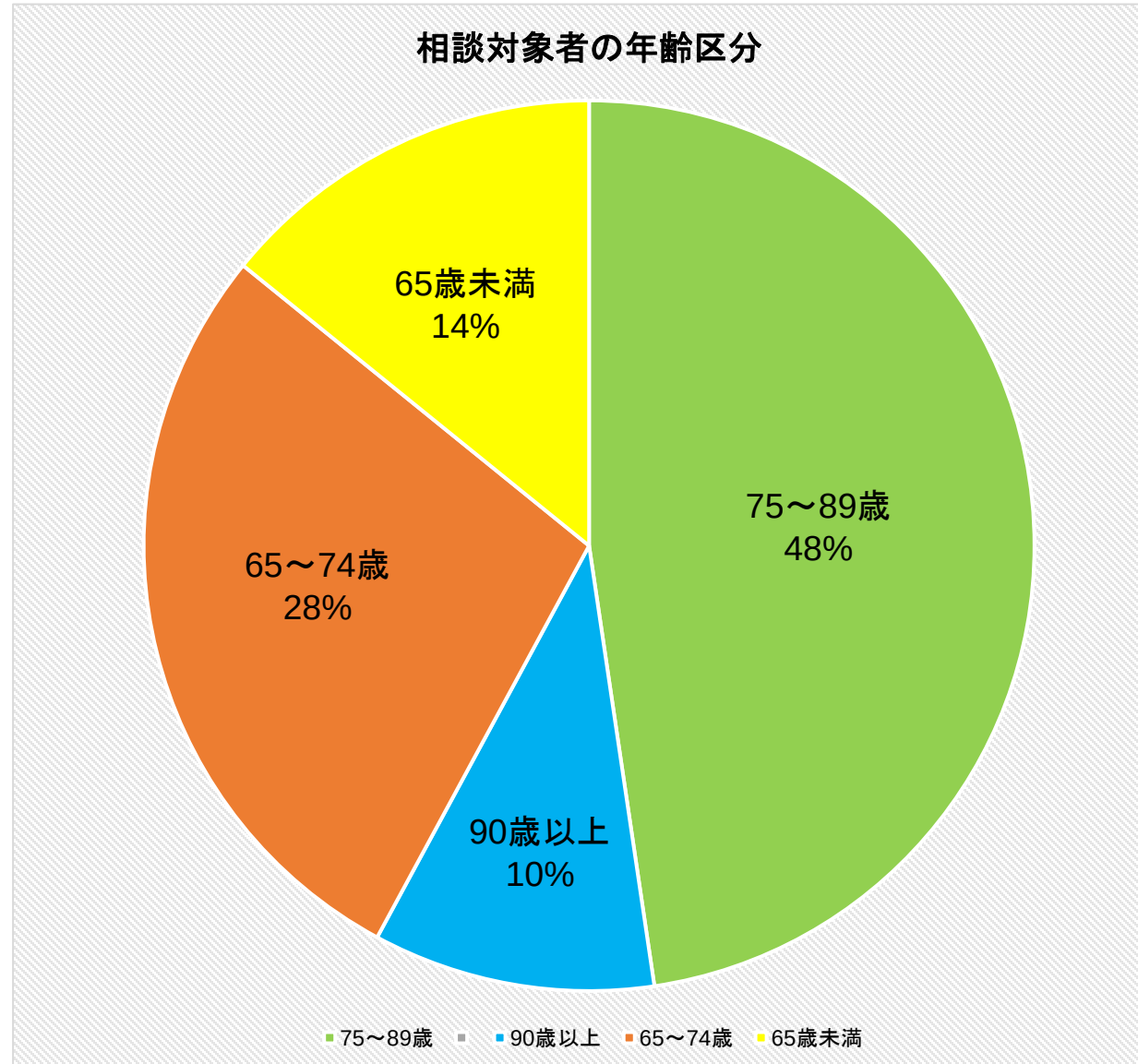


・医療機関 11% ⇒ 23%
・専門職からの相談 68% ⇒ 75%



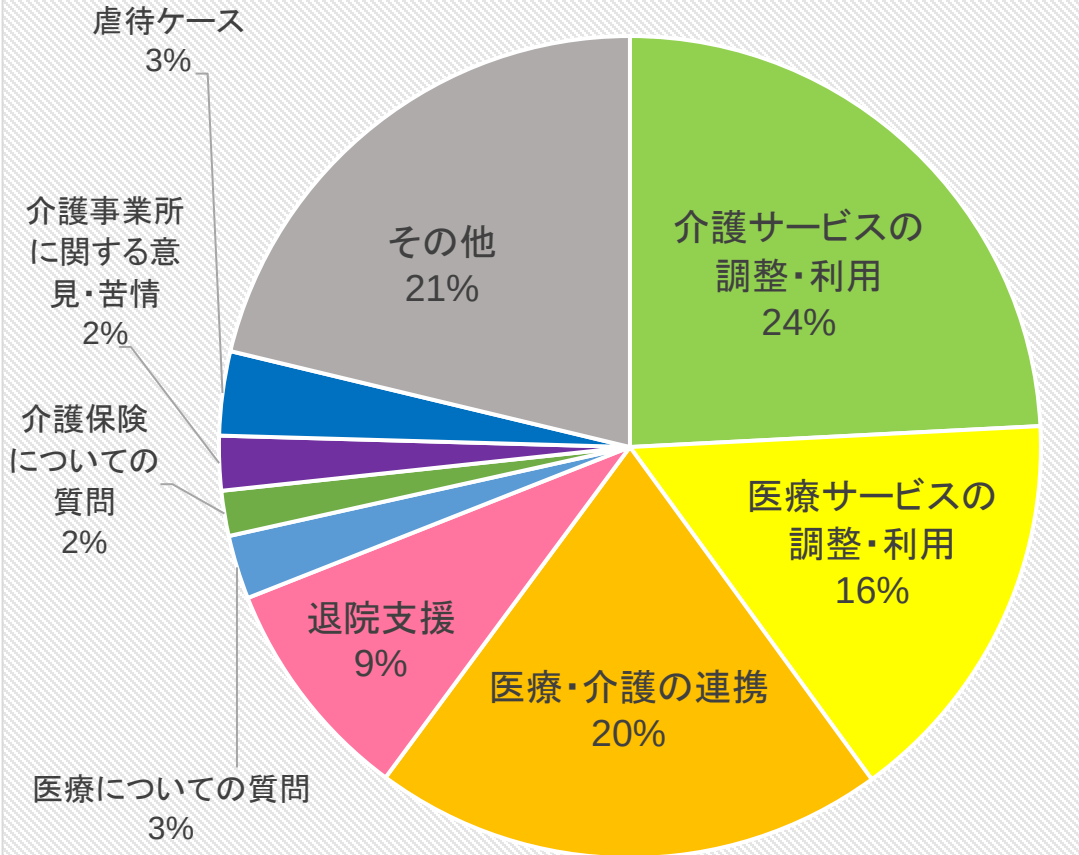
医療機関・専門職からの相談が増加

①相談対応：相談対象者の年齢区分



①相談対応：相談内容内訳

相談内容内訳



主な相談内容の傾向

◆ 介護サービスの調整・利用

- ・喀痰吸引可能な訪問介護事業所、デイサービスの相談(居宅)
- ・医療依存(透析)のある方のショートステイ先の相談(居宅)
- ・認知症による問題行動のある方の介護施設の相談(居宅)
- ・若年癌末期の障害から介護保険への移行(障がい)

◆ 医療サービスの調整・利用

- ・専門診療が可能な訪問診療に関する相談(居宅・高齢者支援センター)
- ・認知症による問題行動がある方の医療機関の相談(居宅)
- ・レスパイト入院先の相談(訪問看護・高齢者支援センター・居宅)

◆ 医療・介護の連携

- ・他市からの町田市の医療介護資源に関する相談(病院)
- ・身寄りがない方の後見制度についての相談(病院)
- ・かかりつけ医がいない方に関する相談(病院・高齢者支援センター)

①相談対応：相談事例等からみえる課題整理

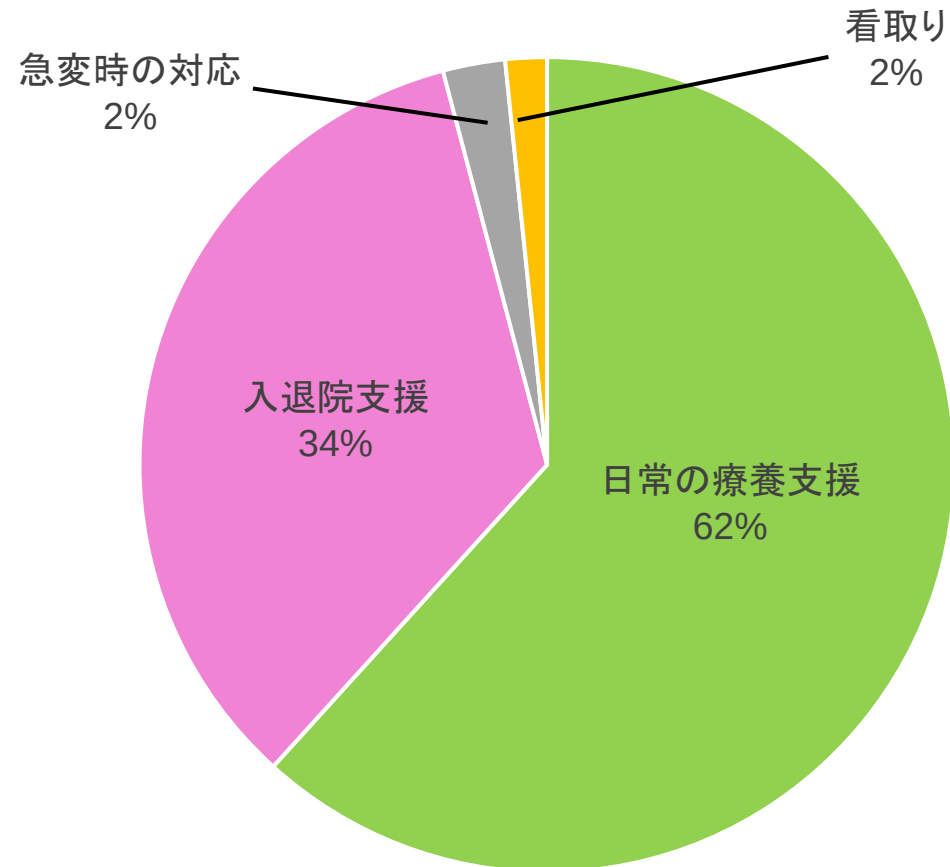
相談内容を厚生労働省の手引きに基づき、在宅療養者の生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる①日常の療養支援②入退院支援③急変時の対応④看取りの4つの場面ごとに分類し、課題の分析を行った。

◆日常の療養支援： 150件

◆入退院支援： 83件

◆急変時の対応： 6件

◆看取り： 4件



①相談対応：相談事例等からみえる課題整理1

◆【日常の療養支援】医療・介護の連携

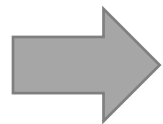
(相談事例)

- ・施設入居中の方の親族が本人のお金を管理していたが、そのお金を使い込んでしまい、結果として施設費用の支払が出来なくなってしまった。退去してほしい。(施設)
- ・身寄りのない方が入院したが認知機能の低下があり金銭管理もできない。(病院)
- ・精神障害者と知的障害者の成人した子どもと認知機能が低下した親のキーパーソン不在の多問題を抱えたケース。(病院・高齢者支援センター)

課題 意思決定を本人が行えず、療養方針の決定が出来ない

(現状)

- ・本人による意思決定ができていない。
- ・本人が意思決定できない場合に、意思決定を行うキーパーソンが存在しないケースが増加している。
- ・医療機関におけるキーパーソンや後見人の存在の重要性が、市民や専門職に十分に理解されていない。



ACP普及ツールの検討や後見制度等の普及啓発を行う。

①相談対応：相談事例等からみえる課題整理 2

◆【日常の療養支援】介護サービスの調整・利用

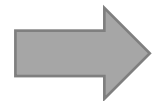
(相談事例)

- ・透析を受けている方の一時的な入所先を知りたい。(居宅)(支援センター)
- ・難病の方で喀痰吸引のできる訪問介護事業所を知りたい。(居宅・障がい者支援センター)
- ・喀痰吸引が必要な方の利用できるデイサービスを探している。(居宅・保健所)
- ・認知症のある方のショートステイ先を探している。(居宅)

課題 専門職が必要な介護事業所に関する情報にたどりつけていない

(現状)

- ・医療依存の高い方に対応できる介護事業所の受け入れ先が少ない
- ・関係者の記憶や経験を頼りに思い当たる介護事業所に問い合わせるしか、情報を得る手段がない
- ・個々のニーズに対応できるほど介護事業所の詳細な情報をとりまとめた資料がない



医療依存のある利用者の受入可能な介護事業所の情報を把握する。

①相談対応：相談事例等からみえる課題整理 3

◆【入退院支援】【日常の療養支援】医療サービスの調整・利用

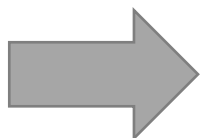
(相談事例)

- ・専門診療(皮膚科・婦人科・耳鼻科・胃ろう交換・血液内科等)が可能な医療機関をさがしている(居宅・高齢者支援センター)
- ・医療依存のある方のレスパイト入院先をさがしている。(居宅)
- ・町田市のリハビリ病院や訪問看護、訪問診療をさがしている。(病院)
- ・認知症のある方の入院先、受診先を探している。(居宅・高齢者支援センター)

課題 専門職が必要な医療機関に関する情報にたどりつけていない

(現状)

- ・関係者の記憶や経験を頼りに思い当たる医療機関に問い合わせるしか、情報を得る手段がない
- ・個々のニーズに対応できるほど医療機関の詳細な情報をとりまとめた資料がない
- ・同様に、訪問歯科や訪問薬局の情報を求める問い合わせがある



専門職が町田市を中心とした医療機関の情報にたどりつけるよう、
かかりつけ医の重要性について地域ケア推進会議において検討を実施した。

②地域ケア推進会議の実施

第1回: 病院選択に当たり、医療と介護で困っていることはありますか？

- ・ 基調講話 講師: やました内科・脳神経クリニック 山下 弘一 先生(町田市医師会会長)
内容: 医療機関選択で困ったことの共有提案、症状に応じたMRI検査とCT検査の機能や用途の違いについて
- ・ グループワークテーマ「病院選択にあたり、医療と介護の関わりでそれぞれの立場で困ったこと」

第2回: 目的に合った医療機関、さがせますか？

- ・ 基調講演 講師: つちや歯科クリニック 土屋 孝治 先生(町田市歯科医師会理事)
内容: 医療機関選択にあたり知っておいてほしいこと 訪問歯科でできること
- ・ グループワークテーマ「医療機関を探したことがありますか？どのような方法を用いて情報収集しましたか？」

第3回: かかりつけの医療と専門の医療

- ・ 基調講演 講師: おれんじ薬局 井上 俊 先生(町田市薬剤師会副会長)
内容: 「かかりつけの医療」と「専門の医療」の違いと使い分けについて 普段の自分を知っている医療機関はありますか？
- ・ グループワークテーマ「かかりつけ医療機関と専門医療機関の使い方・使い分け・連携について」

第4回: 近所に作ろうかかりつけ医療機関

- ・ 基調講演 講師: 増子クリニック 増子 達也 先生(町田市医師会理事)
内容: 医師の立場から考えるかかりつけ医 「かかりつけ医という空虚」
- ・ グループワークテーマ「かかりつけ医について」

③セミナーの実施

課題 制度改定に伴う他領域の制度理解不足

- 令和6年度に診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬のトリプル改正が施行され、各分野に関わる専門職の対応が求められている
- 医療依存度が高く、重層的かつ複合的な課題を抱えている方の支援を行う際には、医療職や介護職が自らの職域外における制度やサービスについて理解する必要がある

➡ 「医療と介護の連携に関する制度改定」を知るセミナーの実施

目的: 医療・介護連携に関する改定内容の知識を習得し、重層的・複合的な課題を抱えている方への支援や医療・介護連携体制の強化に役立てる。

参加者: 医療機関8名、介護関係機関58名

終了後アンケートにて「セミナーに出席して良かった(役立った)と感じますか?」に対し、100%の方が「そう思う・ややそう思う」と回答。

多職種連携協働強化セミナー
令和6年度制度改定編

特に医療と介護の連携に関わる内容
についてお話しいただきます

6月20日(木) 13:30~15:00

場所	オンライン (ZOOM)
講師	(株)スズケン
対象者	町田市内の医療・介護従事者
申込締切	6月13日 17時 または、90端末の定員になり次第 締め切りとなります。 多数のお申し込みが予想されます。 お早めにお申し込み下さい。

Googleフォームよりお申し込みください。
<https://forms.gle/FL5WnAwLDTHVnn6i9>

主催 医療と介護の連携支援センター
042-794-6527
machida-renkeishiencenter@machidahospital.jp
※主任介護支援専門員更新研修要件該当セミナーです。

④会議体等への参加

- ・ 町田・安心して暮らせるまちづくりプロジェクト推進協議会
- ・ 多職種連携研修本会および部会
- ・ 各圏域地域ケア会議本会および企画会
- ・ 町田市地域包括支援センター運営協議会
- ・ 町田市高齢者支援センター連絡会
- ・ 各地区民生児童委員協議会
- ・ 南多摩圏域在宅医療相談窓口合同連絡会
- ・ 南多摩医療圏町田地区 精神科医療地域連携会議研修会
- ・ 町田市社会福祉士会
- ・ みなみ地区社協事業所会議
- ・ 西地区情報交換会

など延べ314件に参加（昨年度287件）